

コバネアオイトトンボ

トンボ目アオイトトンボ科

Lestes japonicus Selys

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

アオイトトンボやオオアオイトトンボと異なり、もともと全国的に希少種であったが、ため池の乾燥や林野の開発など生息環境の劣化により、近年、急速に減少している。

形態

腹長26~33mm、後翅長18~22mm、黄白色の地に金緑の部分がある。オオアオイトトンボより小型で、オスは成熟してもアオイトトンボのような白粉をふかない。

国内分布

東北から九州におよぶが、まれ。

県内分布

能登の2地域に生息するが、加賀からは未発見。志賀町（上野、酒見、久喜）と珠洲市（赤刈、正院、三崎付近）。

生態

丘陵地の林間の、浅く抽水植物の多いため池や沼に生息し、7月下旬から羽化して11月中旬まで池沼の周辺で活動する。アオイトトンボやオオアオイトトンボよりはるかに弱勢で、前2種オスとの異種間連結も見られた。

生息地の条件

平地~丘陵の林間の、抽水植物が多く浅い池沼。珠洲では、かなり小さい沼沢でも見られる地点がある。

生存の危機

志賀町では主産地のため池の一つが最近干上り、本種がまったく見られない。アメリカザリガニの侵入した池もある。珠洲でもブラックバスの移入、山道の建設や開発に伴い減少した地点がある。池沼の周囲の林野の荒廃も、悪影響を及ぼす。(A, B, C)

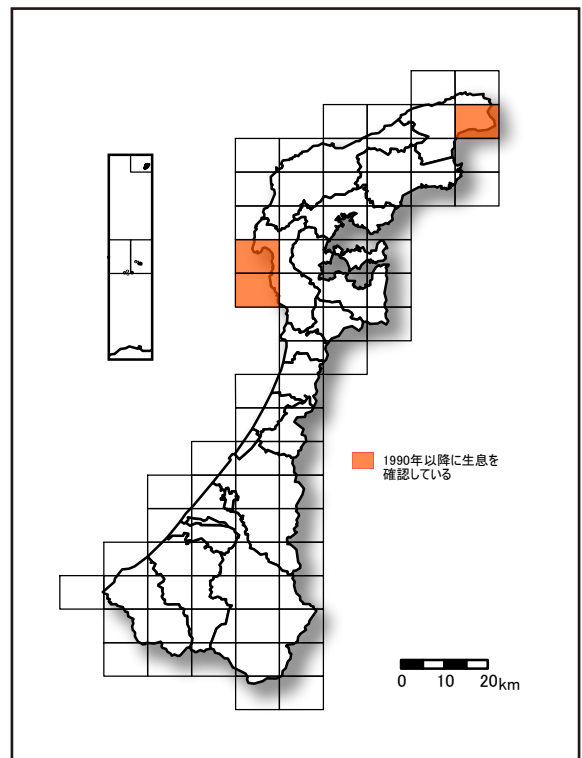
参考文献

武藤 明 2006. 石川県の蜻蛉目、とっくりばち, (74) : 7-19.

武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見、とっくりばち, (75) : 24-28.



写真提供者: 富沢章



県内の分布